

2/10 (金) ~2/13 (月) の行事

はじめよう、つづけよう。

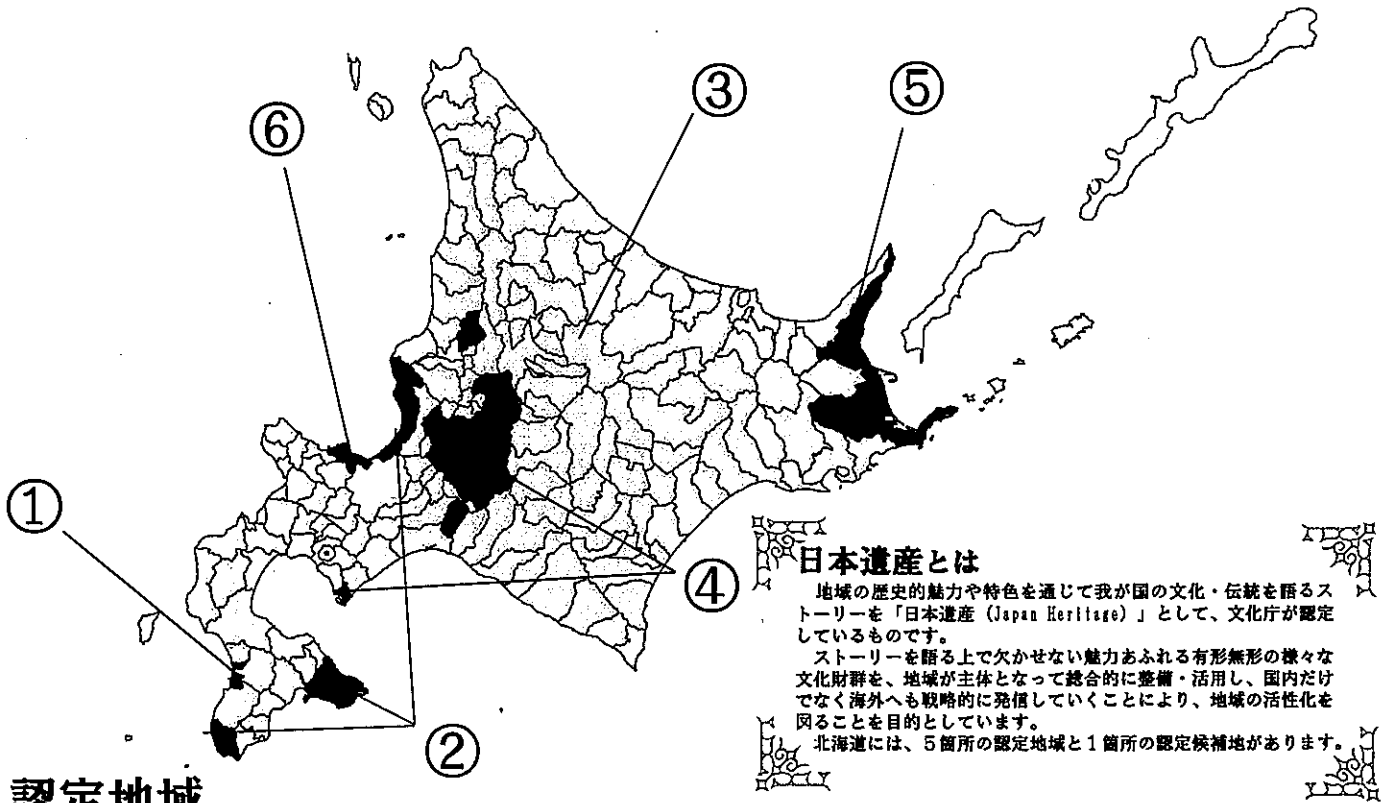
「北海道スタイル」



～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 北海道スタイル

報道発表資料の配付日時 2月9日 (木) 11時00分

<p>発表項目 (行事名)</p>	<p>「令和4年度 日本遺産パネル展」の開催について</p>		
<p>記者レクチャー のお知らせ</p>	<p>(実施日時)</p>	<p>発表者</p>	
<p>概要</p>	<p>道では、道内の日本遺産推進協議会等（6団体）と連携し、日本遺産を地域活性化に活かす取組を進めています。このたび、日本遺産の価値や魅力、地域での取組内容を広く発信するため、文化庁等が定める※「日本遺産の日（2月13日）」にあわせ、次のとおりパネル展を開催します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 日時：令和5年2月10日（金）10時から 2月13日（月）16時まで（閉庁時間を除く）</p> <p>2 会場：北海道庁1階道政広報コーナー（特設展示場B）</p> <p>3 展示内容 （1）日本遺産の概要及び活動紹介パネルの展示 （2）パンフレット、リーフレットの配布 等</p> <p>4 主催：北海道総合政策部地域政策課</p> <p>5 協力：江差町観光まちづくり協議会、北前船日本遺産推進協議会、大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会、炭鉄港推進協議会、鮭の聖地メナシネットワーク、小樽市日本遺産推進協議会</p>		
<p>参考</p>	<p>・日本遺産とは、地域の歴史的的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。道内には、5カ所の日本遺産認定地域と1カ所の認定候補地があります。（別紙参照） ※「日本遺産の日（2月13日）」は、日本遺産に対する理解と関心を高めることを目的に、文化庁及び日本遺産連盟（全国各地の日本遺産認定地域等）が令和2年に制定。</p>		
<p>報道（取材） に当たって のお願い</p>	<p>多くの方に日本遺産への関心を持っていただけるよう、積極的な報道をお願いいたします。</p>		
<p>他のクラブ との関係</p>	<p>同時配付 同時レク</p>	<p>(場所)</p>	
<p>担当 (連絡先)</p>	<p>総合政策部地域創生局地域政策課主幹 小林 有 電話（ダイヤルイン）011-204-5795 内線21-293</p>		



## 認定地域

### 日本遺産とは

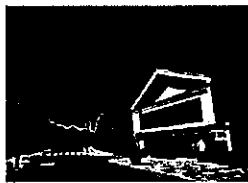
地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として、文化庁が認定しているものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

北海道には、5箇所の認定地域と1箇所の認定候補地があります。

### ① 江差の五月は江戸にもない ～ニシンの繁栄が息づく町～ (江差町)

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻(きりづま)屋根の建物が立ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられています。この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の取引によって形成されたもので、その様子は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。



【旧中村家住宅と町並み】

### ② 荒波を超えた男達の夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～ (函館市・松前町・小樽市・石狩市ほか道外市町村)

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や表壮な船主屋敷が建っています。これらの港町は、荒波を超え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間となっています。



【立岩前の北前船】  
(小樽市総合博物館 蔵)

### ③ カムイとともに生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～ (上川町・旭川市・富良野市・上富良野町・美瑛町・比布町・当麻町・東川町・上土幌町・網走町・士幌町・新穂町)

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ〜神〜を見出し共に生きた「上川アイヌ」。上川アイヌは「川は山へ溯(さかのぼ)る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミヅラ〜神々の遊ぶ庭〜として崇拝してきました。神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。



【大雪山の雄大な自然】

### ④ 本邦国策を北海道に観よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～ (夕張市・岩見沢市・倶利伽羅町・赤平市・芦別町・三笠市・美山町・月形町・沼田町・安平町・富良野市・小樽市)

北海道の「石炭」「鉄鋼」「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港(たんでつこう)」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。100km圏内に位置する3地域を原動力に、北海道の人口は約100年で100倍になり、その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力となっています。



【住友奔別炭鉱立坑 樽】

### ⑤ 「鮭の聖地」の物語 ～根室海峡一万年の道程～ (標津町・根室市・別海町・羅臼町)

北海道最東の海、根室海峡。この地では遙か一万年の昔から絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。暮れ一人の会津藩士がこの資源に注目し、水産業の芽を育てます。そして現在、その芽は全国の食卓と繋がる基幹産業へと成長しました。鮭に笑い、鮭に泣いた人々の歴史と文化、そして誇りがあふれた「鮭の聖地」です。



【西別鮭寒風干し】  
(提供 別海町観光協会)

## 認定候補地域

### ⑥ 北海道の「心臓」と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～ (小樽市)

かつて小林多喜二は、明治以降に、港と鉄道の大動脈により発展していく小樽を北海道の「心臓」と表しました。北日本随一の商都小樽は、財を成した資本家など「民の力」でまちをつくりあげましたが、高度経済成長期に衰退。荒廃した運河の保存運動を契機に、新たな「民の力」が動き出し、観光への活用・再生に繋がっています。日本のまちづくり運動の先駆けとなった小樽市民の物語です。



【小樽運河(雪あかりの路)】

魅力ある日本遺産の活動への応援をお願いします。